

2014年度経営プラン Q3フォロー

2015年2月4日

古河電気工業株式会社

取締役 財務・調達本部長 荻原 弘之

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

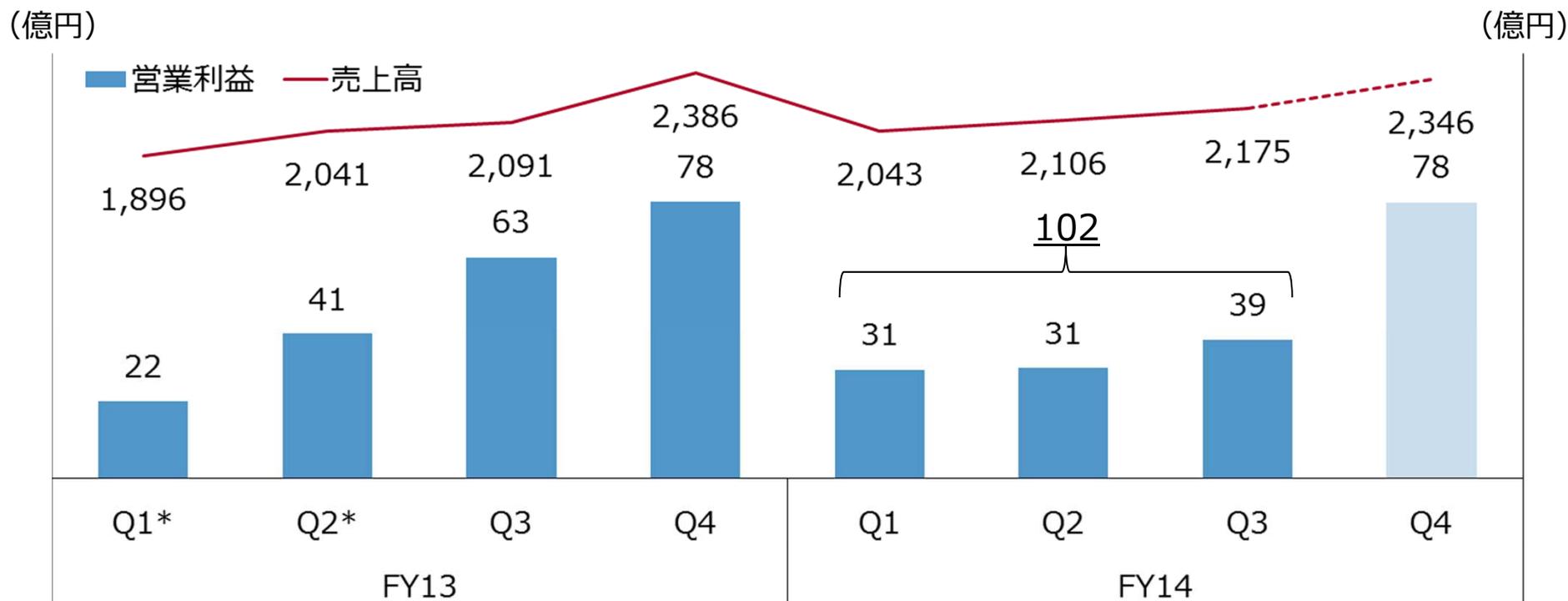
古河電気工業株式会社

1. 2014年度 第3四半期業績概況
 2. セグメント別概況
 3. 銅条製品の一貫生産を再開
 4. 2014年度 業績予想
- Appendix ; 海外比率、戦略商品トレンド

1. FY14Q3決算…概況

■ FY14Q3累計営業利益：102億円（前年同期は125億円*）

- 情報通信やエレクトロニクス系の海外市場向け製品は好調、円安効果も加わり改善
- エネルギー・産業機材は構造改革で改善
- 自動車部品は円安進行による輸入コスト増、国内市場減速等が影響
- 銅条等への日光雪害によるマイナス影響は想定通り、1月復旧以降の立ち上がりは順調



(注) 2013年度第1四半期及び第2四半期は旧古河スカイ分を控除

1. FY14Q3決算…要約PL

(単位：億円)

	FY13Q3		FY14Q3		前同比 増減	増減の内訳
	a	10~12 b	c	10~12 d		
売上高 (率)	6,932	2,091	6,324	2,175	c-a △ 609 -8.8%	8ページ参照
営業利益 (率)	176	63	102	39	△ 74 -42.2%	9ページ参照
持分法投資損益	27	24	22	12	△ 6	VISCAS : △6.7 他
為替損益	16	2	2	5	△ 14	
経常利益 (率)	212	95	122	50	△ 90 -42.4%	
特別損益	△ 76	△ 27	△ 48	△ 15	28	雪害対応の影響（16ページ参照）、事業構造改革及び減損損失の影響減
法人税等	49	18	30	14	△ 18	
少数株主利益	16	3	16	6	△ 1	
当期純利益 (率)	71	47	27	16	△ 43 -61.1%	

1. 旧古河スカイ関連の補正

(単位：億円)

	13Q3	14Q3	前同比 増減
	a	b	b-a
旧古河スカイ控除後 売上高 (率)	6,028	6,324	295 4.9%
旧古河スカイ控除後 営業利益 (率)	125	102	△ 24 -18.8%
持分法投資損益	27	22	△ 6
UACJ	23	27	4

1. FY14Q3決算…要約BS

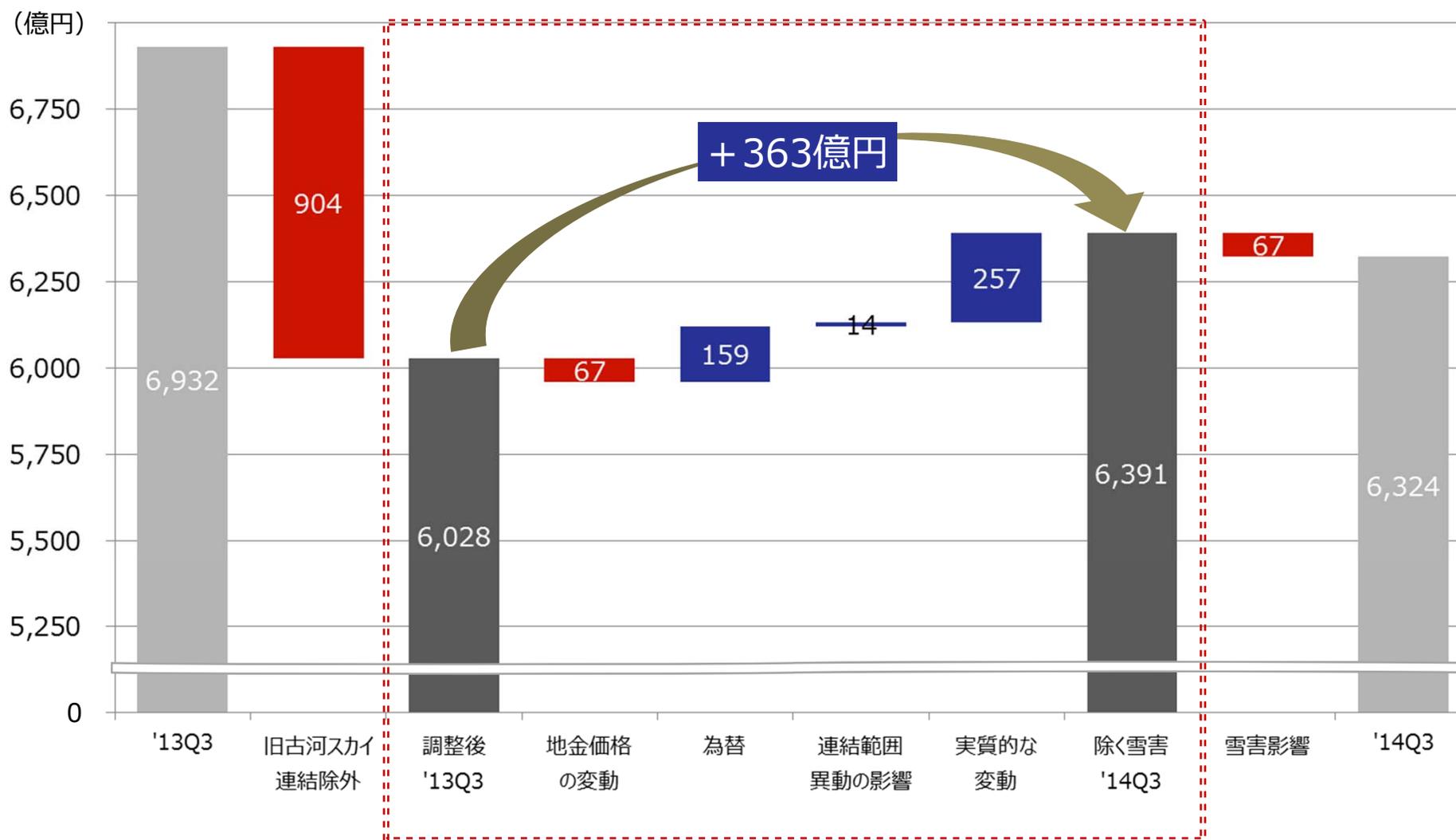
(単位：億円)

	13Q3末	13Q4末	14Q3末	増減	主な増減
	a	b	c	c-b	
総資産	7,365	7,148	7,650	502	為替の円安による増加、 雪害対応に伴う影響
有利子負債	3,010	2,779	3,105	327	
自己資本比率	25.1%	24.8%	24.8%	0.0%	
D/Eレシオ	1.63	1.57	1.64	0.07	
総資産回転率* (年換算売上高／総資産)	1.26	1.17	1.10	-0.07	
ROA (年換算経常利益／総資産)	3.8%	3.6%	2.1%	-1.5%	

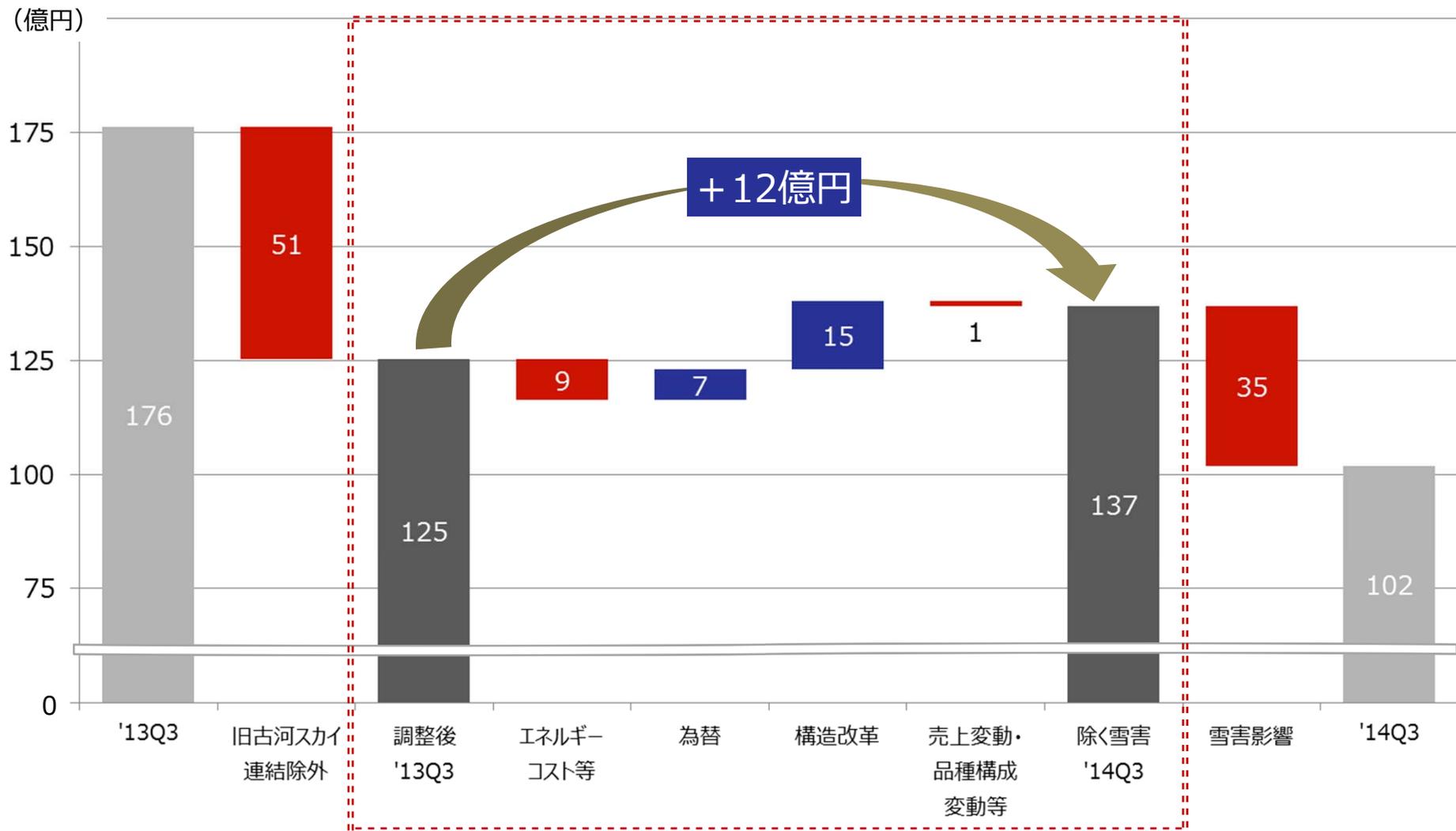
(注) 総資産回転率は旧古河スカイ分を控除

Intentionally Blank

1. FY14Q3決算…累計売上高増減分析



1. FY14Q3決算…累計営業利益増減分析

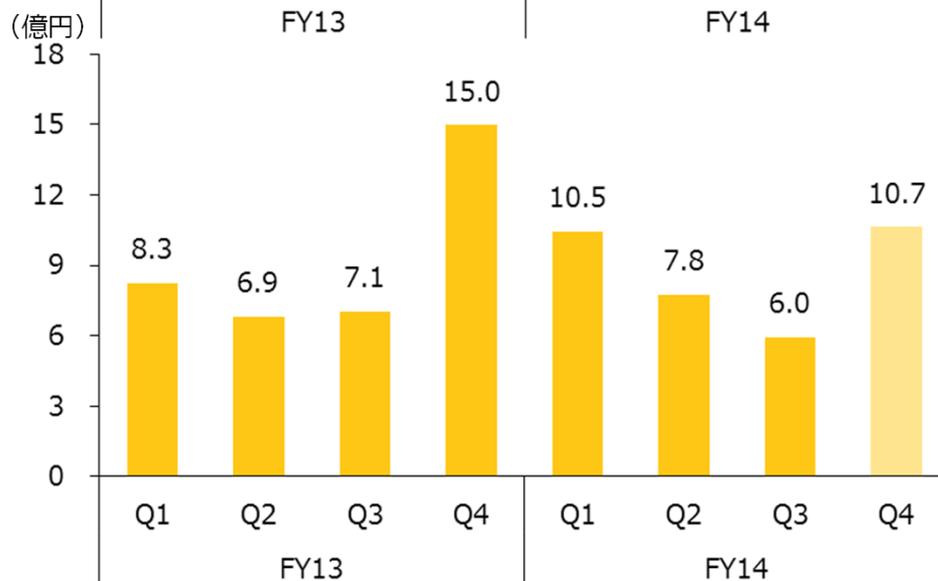
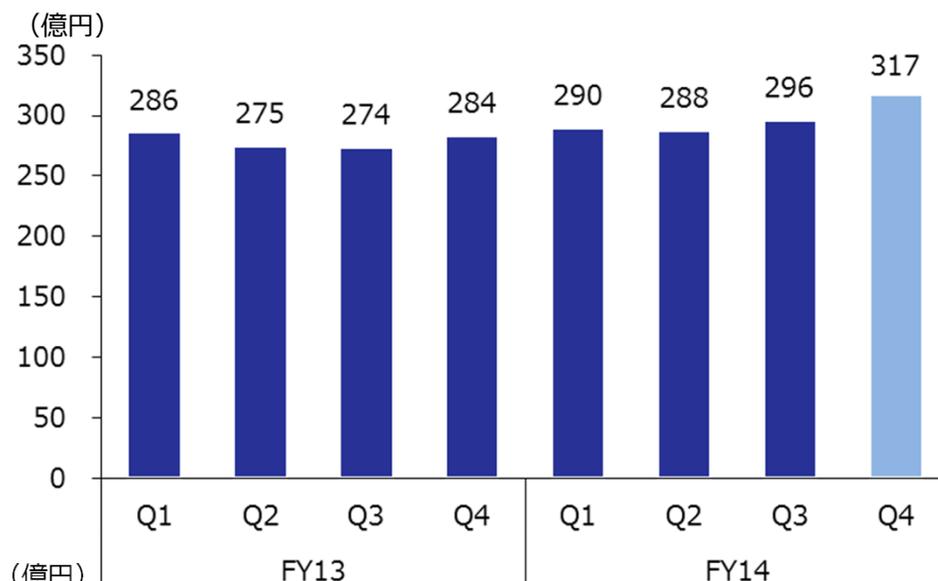


1. セグメント別売上高及び営業利益予想

(単位：億円)

上段：売上高 下段：営業利益	FY13 実績	FY14 前回予想	FY14 今回予想	前期比 増減	前环比 増減	14Q3 実績	14Q4 予想	Q3/Q4 増減
	a	b	c	c-a	c-b	d	e	e-d
情報通信	1,539	1,540	1,565	26	25	387	428	41
光ファイバ・ケーブル	1,118	1,140	1,190	72	50	296	317	21
フォトニクス・ネットワーク	421	400	375	△ 46	△ 25	91	111	20
エネルギー・産業機材	2,989	2,900	2,930	△ 59	30	741	773	32
電装・エレクトロニクス	2,910	3,000	3,080	170	80	779	856	77
金属	1,307	1,300	1,325	18	25	334	341	7
軽金属	966	-	-	-	-	-	-	-
サービス・開発等	441	500	535	94	35	137	142	5
売上高	9,318	8,500	8,670	△ 648	170	2,175	2,346	171
情報通信	78	65	65	△ 13	0	15	24	9
光ファイバ・ケーブル	37	35	35	△ 2	0	6	11	5
フォトニクス・ネットワーク	41	30	30	△ 11	0	9	14	4
エネルギー・産業機材	17	40	40	23	0	10	15	5
電装・エレクトロニクス	140	130	125	△ 15	△ 5	31	50	19
金属	△ 31	△ 50	△ 50	△ 19	0	△ 16	△ 12	3
軽金属	44	-	-	-	-	-	-	-
サービス・開発等	4	△ 5	0	△ 4	5	△ 0	△ 0	0
営業利益	255	180	180	△ 75	0	39	78	39

2. セグメント別…光ファイバ・ケーブル



(注) 上段は売上高、下段は営業利益

Q3の営業利益概況

前同比：13Q3⇒14Q3 ▲1.1億円

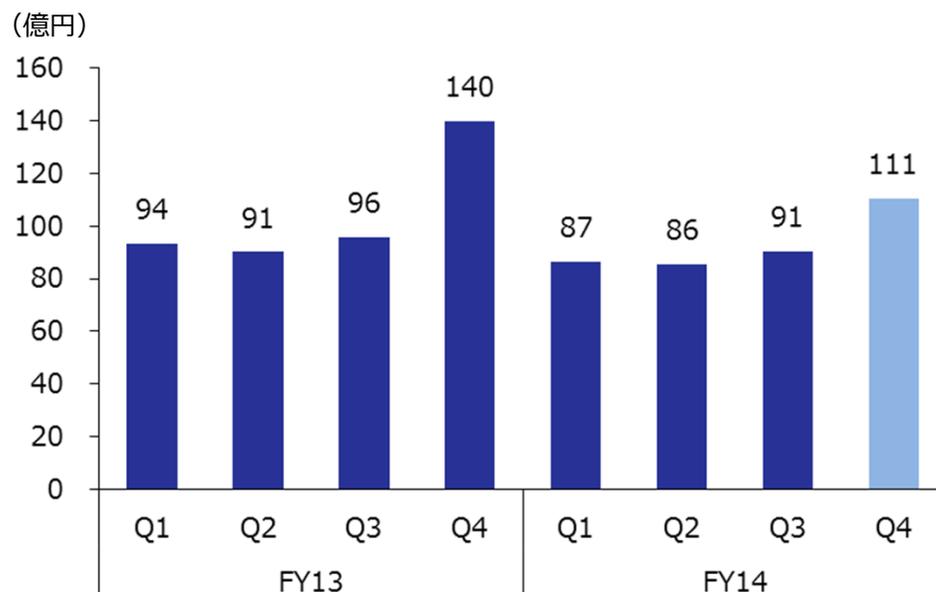
- 北米・欧州の需要回復もあり、米国OFSが改善
- 輸出ファイバの円安効果、数量増
- 前期は一時的な押し上げ要因あり

Q4の営業利益見通し

直前Q比：14Q3⇒14Q4予想 +4.7億円

- 米州で収益を伸ばす
- 輸出ファイバが好調継続

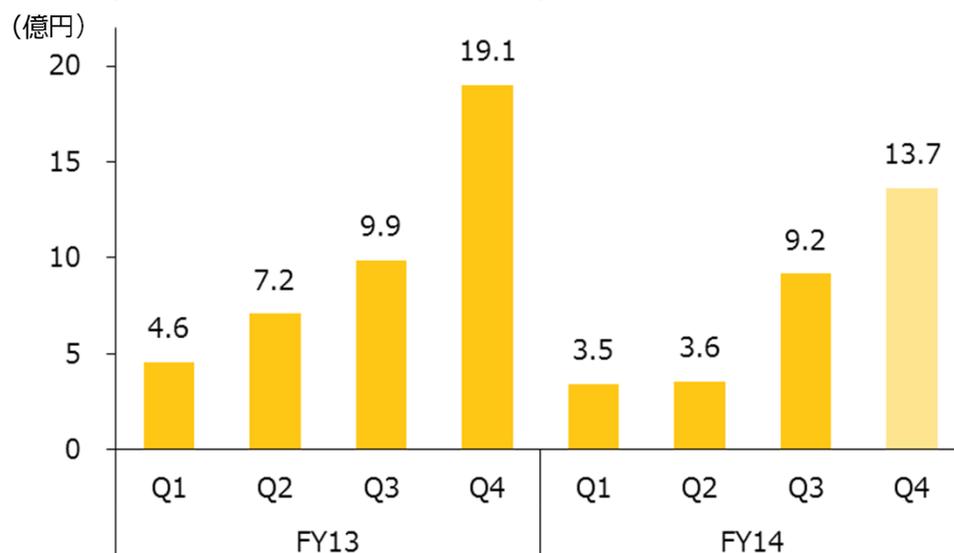
2. セグメント別…フォトニクス・ネットワーク



Q3の営業利益概況

前同比：13Q3⇒14Q3 ▲0.7億円

- 国内ネットワーク関連製品の一部需要回復遅れ
- デジタルヒーレント関連製品は順調
- 国内モバイル通信システムのQ2からの延伸分が貢献



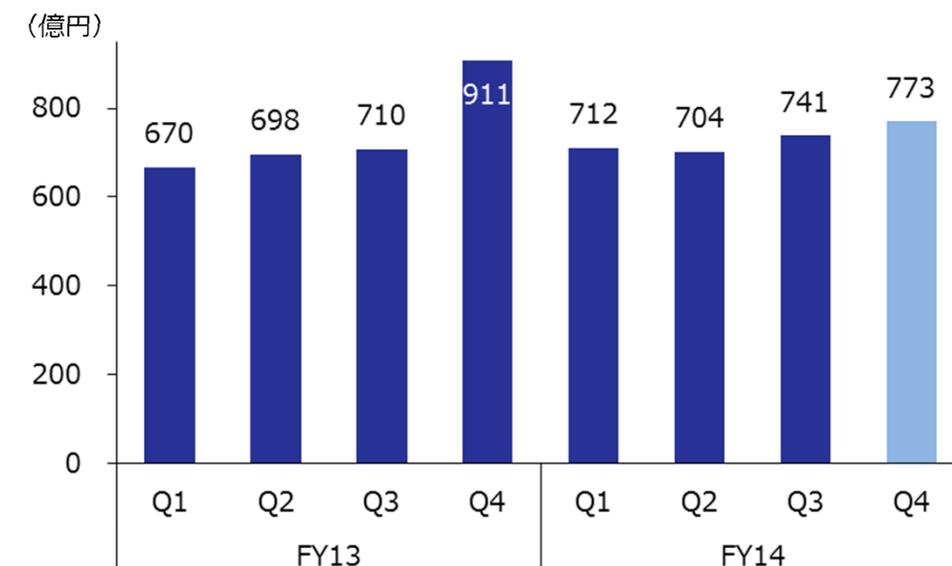
Q4の営業利益見通し

直前Q比：14Q3⇒14Q4予想 +4.5億円

- 国内ネットワーク関連製品の売上が年度末に集中

(注) 上段は売上高、下段は営業利益

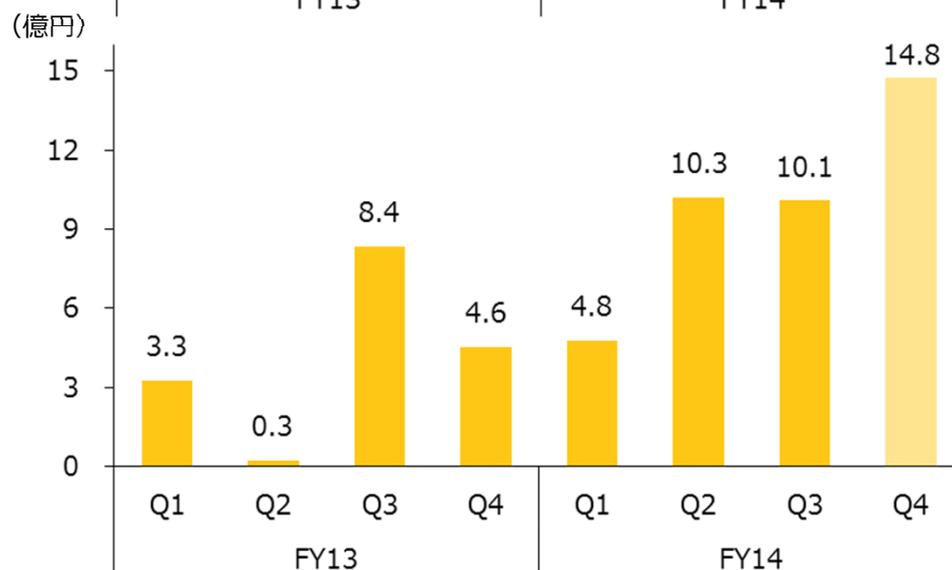
2. セグメント別…エネルギー・産業機材



Q3の営業利益概況

前同比：13Q3⇒14Q3 +1.7億円

- 瀋陽古河が構造改革効果で回復
- スマートフォン向けの半導体製造用テープの好調などが貢献



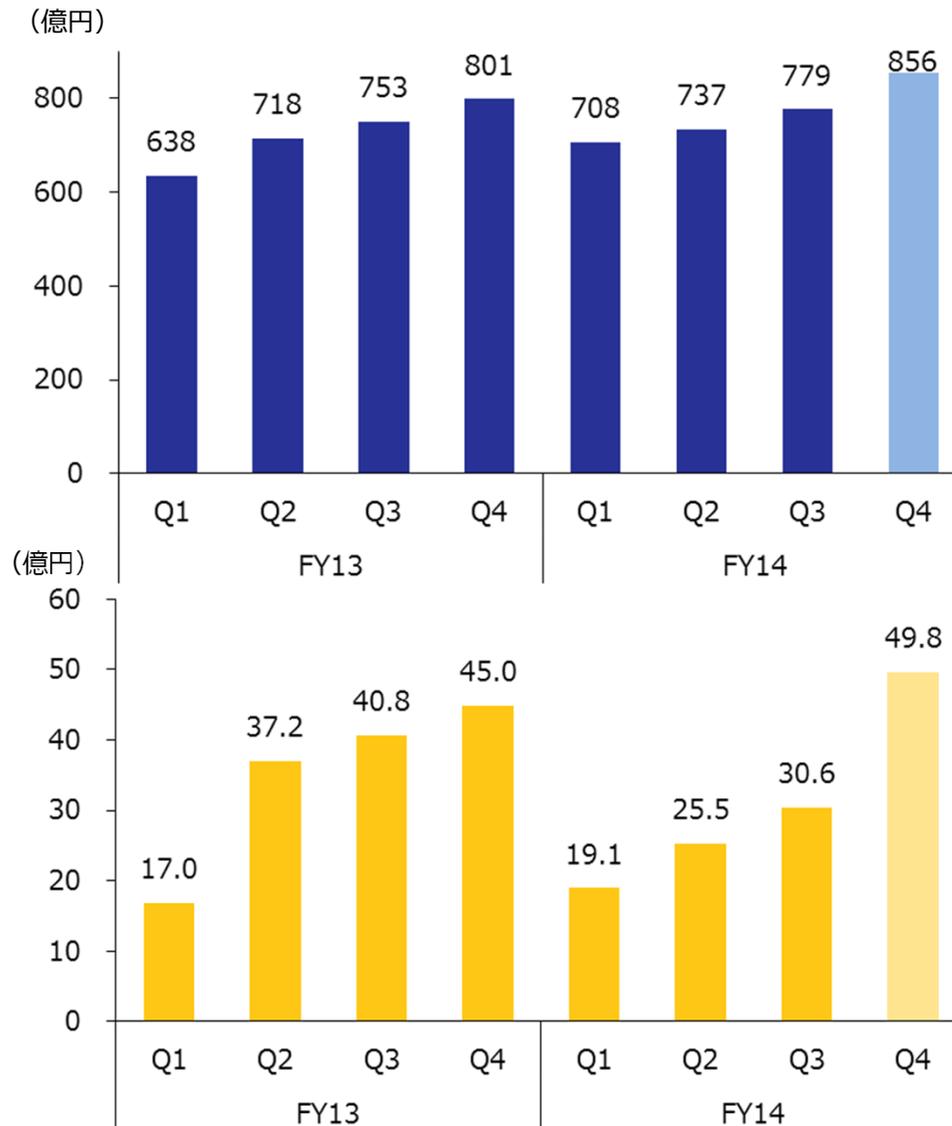
Q4の営業利益見通し

直前Q比：14Q3⇒14Q4予想 +4.7億円

- 瀋陽古河が国内外で売上増や高収益品の比率アップ
- スマートフォン向けの半導体製造用テープも好調を維持

(注) 上段は売上高、下段は営業利益

2. セグメント別…電装・エレクトロニクス



(注) 上段は売上高、下段は営業利益

Q3の営業利益概況

前同比：13Q3⇒14Q3 ▲10.2億円

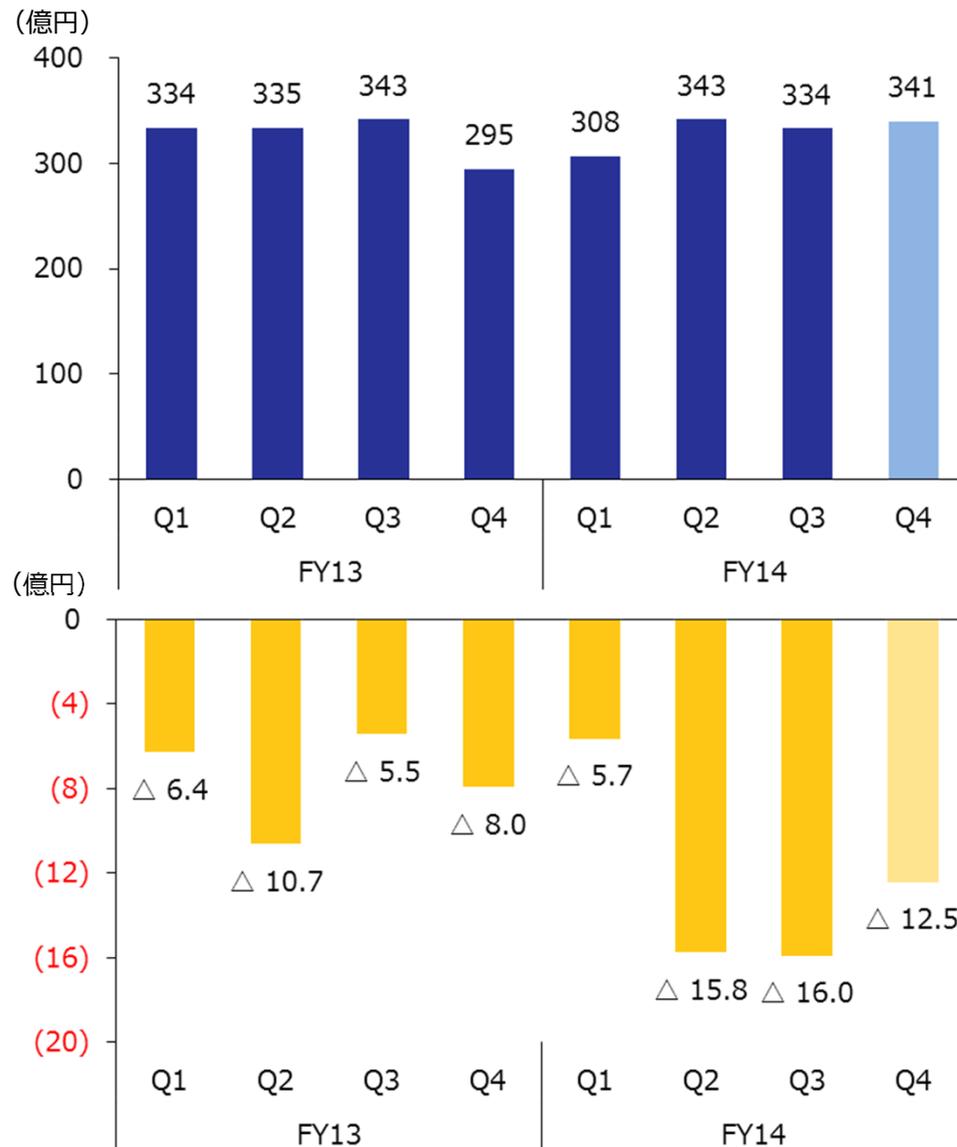
- サーマル（放熱製品）は好調
- 自動車部品で円安による輸入コスト増、売値・品種構成変動、フィリピン港湾交通規制による航空便増などで減益

Q4の営業利益見通し

直前Q比：14Q3⇒14Q4予想 +19.2億円

- 自動車部品は海外拠点の円安効果、経費削減、フィリピン港湾問題への対策実施による費用削減等
- 古河電池の季節要因が寄与

2. セグメント別…金属



(注) 上段は売上高、下段は営業利益

Q3の営業利益概況

前同比：13Q3⇒14Q3 ▲10.5億円

- 銅条…雪害影響
- 銅箔…車載用箔の需要が減少したものの、国内拠点で減損効果、台湾電池用箔は操業度アップで黒字化

Q4の営業利益見通し

前Q比：14Q3⇒14Q4 +3.5億円

- 銅条…日光工場の一貫生産再開に伴い、他社への生産委託によるコストアップ要因が解消

3. 銅条製品の一貫生産を再開

■ 復旧後の数量立ち上がりは順調、Q4は計画通りの見通し

■ 今後の戦略

- エレクトロニクス市場向けに加えて、自動車部品市場へ本格参入開始
- 高品位（クラス1相当）の無酸素銅条製品を放熱部品用へ新たに投入
- 海外市場へ銅条製品の拡販体制構築
 - 中国の提携先（AXグループ）との技術支援・OEM連携を強化
 - 国外コイルセンターを活用し、戦略商品（EFTEC-64T、EFCUBE、コルソン合金等）、車載用合金類のジャスト・イン・タイムを実現



再稼働開始した中間圧延機
(日光事業所)

(単位：億円)

【Q2決算 (10/31)】

	営業利益へのマイナス影響額			特別 損失
	銅条	銅条以外		
Q1	8	6	2	7
Q2	11	10	1	6
H1	19	16	3	13
Q3	-	-	-	-
Q4	-	-	-	-
H2	27	25	2	11
Y	46	41	5	23

【Q3決算 (2/4)】

	営業利益へのマイナス影響額			特別 損失
	銅条	銅条以外		
Q1	8	6	2	7
Q2	11	10	1	6
H1	19	16	3	13
Q3	16	15	1	7
Q4	10	9	1	7
H2	26	24	2	14
Y	45	41	5	26

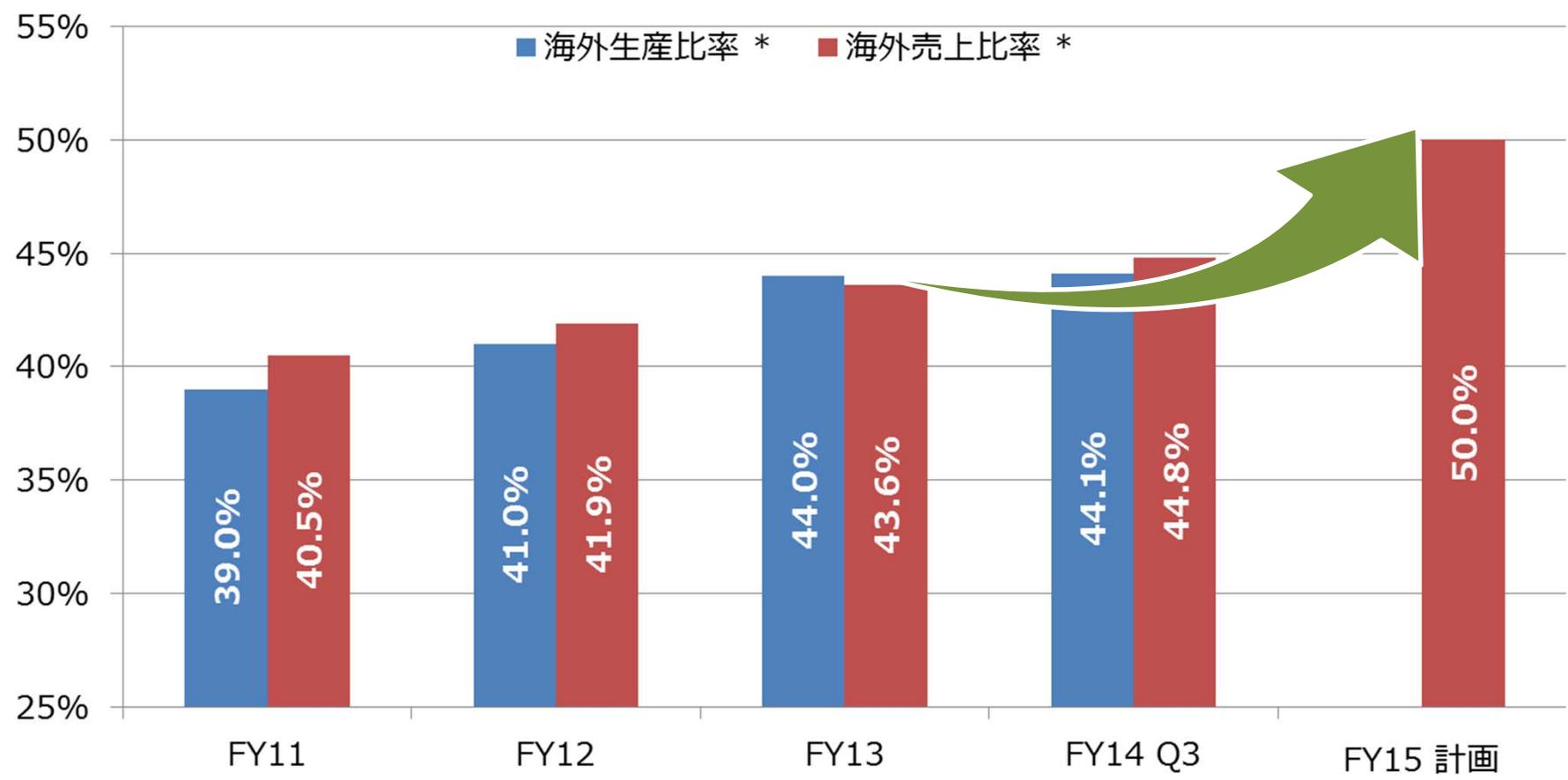
4. FY14Q4予想

(単位：億円)

	FY13		FY14予想		前同比増減	
	a	Q4 b	c	Q4 d	c-a	Q4 d-b
売上高 (率)	9,318	2,386	8,670	2,346	△ 648 -7.0%	△ 39 -1.6%
営業利益 (率)	255	78	180	78	△ 75 -29.3%	△ 0 -0.2%
持分法投資損益	△ 8	△ 36	-	-	-	-
為替損益	20	4	-	-	-	-
経常利益 (率)	255	44	200	78	△ 55 -21.7%	34 78.8%
特別損益	△ 82	△ 6	△ 55	△ 7	27	△ 0
法人税等	90	42	-	-	-	-
少数株主利益	27	10	-	-	-	-
当期純利益 (率)	56	△ 14	60	33	4 7.0%	47

Appendix…生産及び売上の海外比率の推移 FURUKAWA ELECTRIC

- FY14Q3で海外生産比率44.1%、同売上比率44.8%に拡大
- FY15は、輸出ならびにアウト-アウトビジネスを増やし、50%をめざす

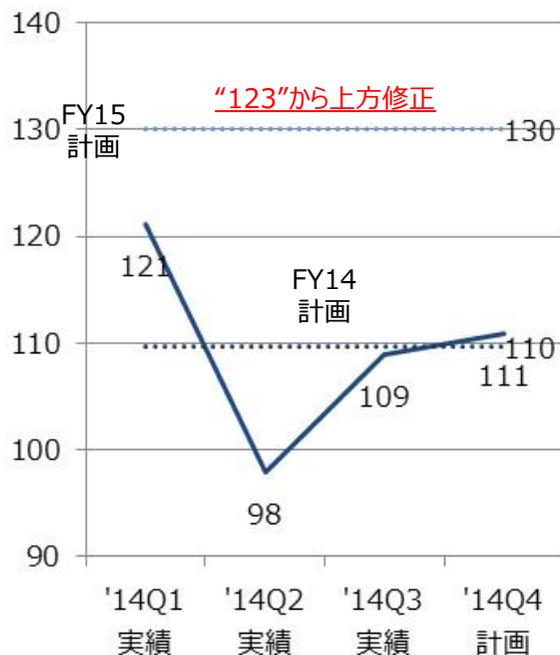


(注：海外生産比率及び海外売上比率は、それぞれ旧古河スカイ分を控除し算出)

Appendix…戦略製品と売上数量トレンド

ITLA/FBT

デジタルコヒーレント通信用集積型信号光源



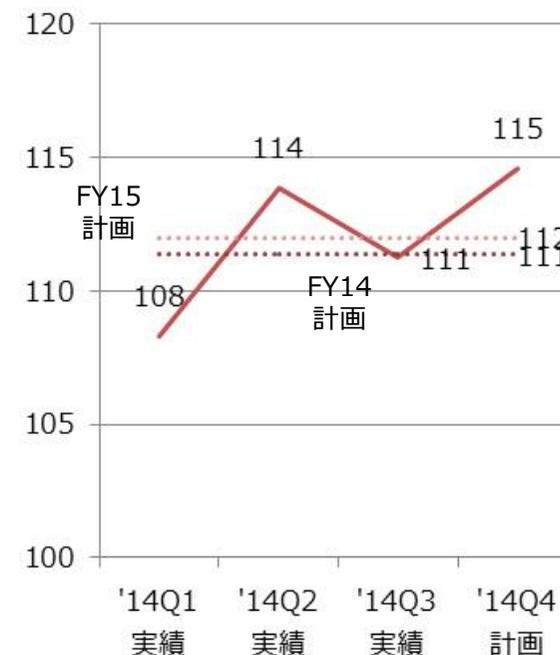
BSS

車載バッテリー状態検知センサー



SRC

車載エアバッグ用コネクタ



(注：各製品とも'13Q4を100とする指数)

ご清聴ありがとうございました。

Bound to  *Innovate*